



社父恩

鐵錫片
引
一

坤



わ國も一花も種もなかり木もなかり
くたけもあれ家もなかり春の残の
ゆふもいづれ梅の貴も花の残も
花もなかり梅もなかり梅もなかり
花もなかり梅もなかり梅もなかり
花もなかり梅もなかり梅もなかり
花もなかり梅もなかり梅もなかり
花もなかり梅もなかり梅もなかり

まゝのり子ゝゝゝかゝり——元本の所
こゝはつゝゝゝゝゝの所ゝゝゝゝゝゝゝ
序又れゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何れそ水
ゝゝ

知えこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
深中

本是霓裳隊裏僊當場歌舞最
爭妍今朝檀板聲何慘看得斑衣
淚潸然 自家裝束自家情惆悵春
風奏管絃演到琵琶湯藥劇
琵琶記湯藥一劇為
蔡老兒臨終情甚悽惻不堪回首憶當年
小詩二章應
尾上梅幸詞友之屬
乘桴散吏初稿



夏懐旧

古筆うけ

じつとよき夏うけ
たのしみとあふちり
るは水のり

趣涼歩
小園
井泉
手自
汲深瀝
礫石通
秋端葉

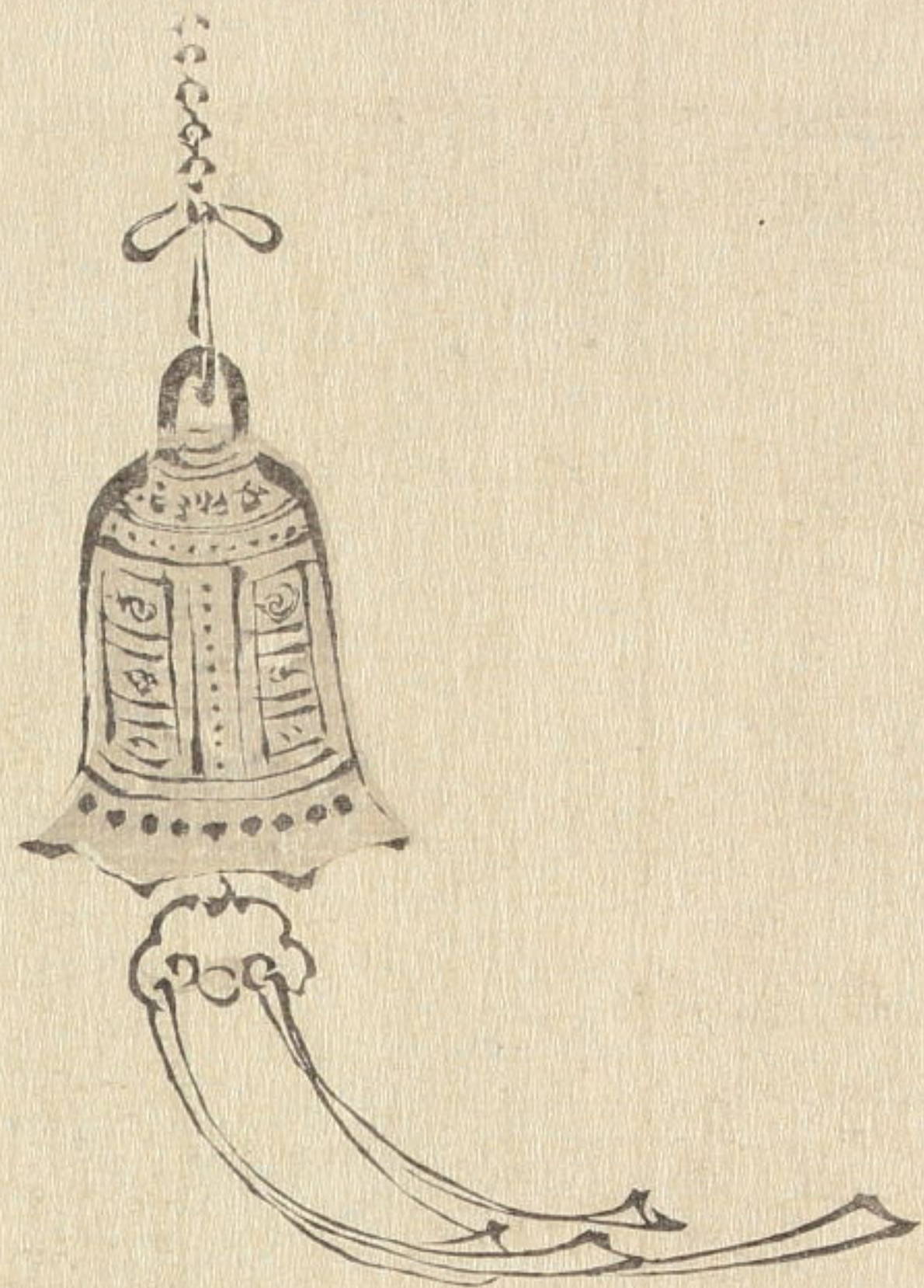


一歩けり箱籠年時



應無所住而生其心

三



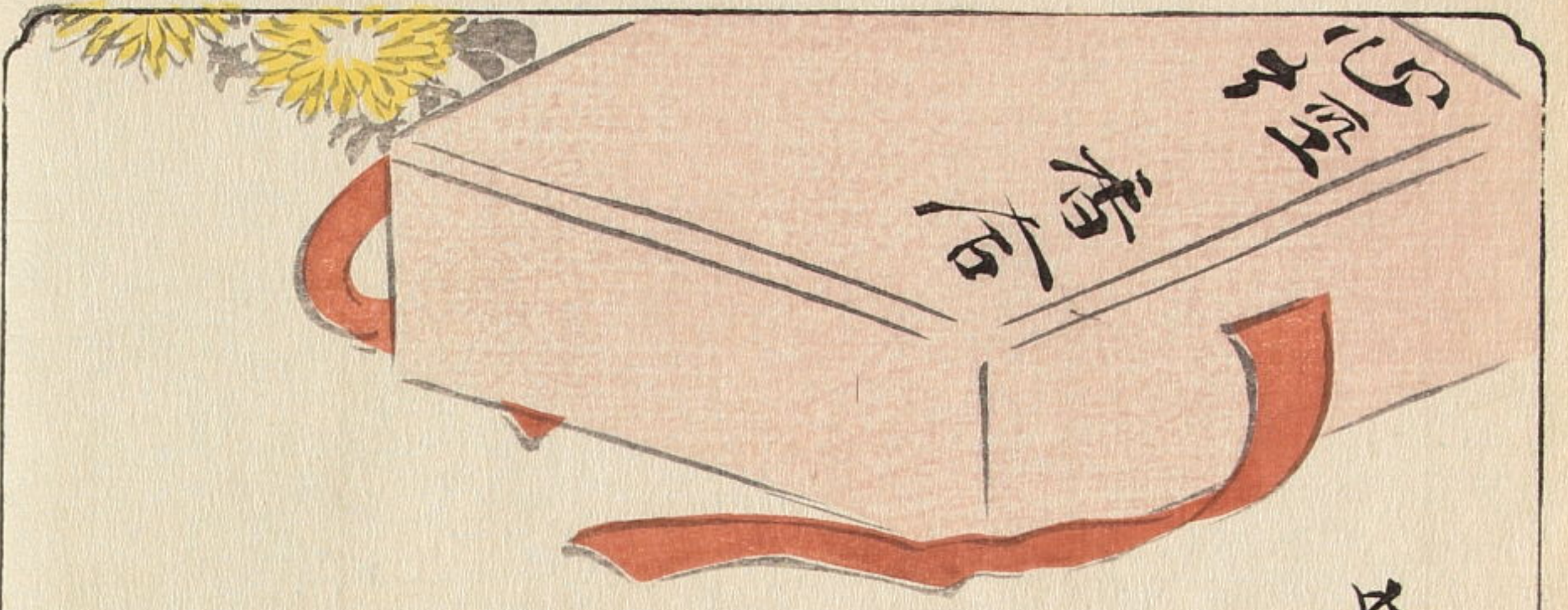
雪庵



江堤仍野岸
滿枯茨一事
腰綠東君興
來

松塘釣史





梅心
五

下る来より梅心
かきく歌人なり
乃ち心を写す
所へん 友繁



易女
[Red Seal]

黑白青黃何據擇 東西為事
 小本縱橫功名局 促蜩生所
 福福輪旋水馬門 銀鬲香
 殘世幻影本無風 過有出
 聲 換前年柳 套 暗標



真武

外画花灼々明

明治辛巳春月書於高化行庵
西窓為標幸雅兄之囑

宗梅主人

歸齋



省亭



惟之
 畫

梅壽居士自作之有像之類
 香阿弥招氏



面影乃

砂子

羅漢

郭

高秋木落洞庭空岳
陽城南多晚風蛟龍
夜獲玉壇古劍影長
留月明中 万菴



千代見草 一名梅幸年表

梅曆山人筆記

五代目尾上菊五郎ハ十二代目市村羽左衛門妻ハ三代目尾上菊五郎の次
後梅壽の次女トハ
男弘化元甲辰年六月四日の産にて幼名を九郎右衛門と云○
嘉永元戊申年十一月碁盤忠信雪黒石當顔見世番附へ初めて若
あやとをき
太夫市村九郎右衛門と名前を出せり○同二己酉年正月青砥調
○同年四月恵閑初復藤小鶯の者橘の市松今年六才ふて初舞
基と勤め一が梅檀ハ二葉より香ばしくせりふ廻しも閑語を成
人の後ハ一廉の役者ふちるに疑ひあると皆人言はやせ一が
果して今一個乃大達者となるなり○同年五月むらがさ盛衰記小
木曾の公達駒若丸○同年八月詞花紅成盛小神田の与吉○同

年九月紅成盛後日狂言（餘波五色花魁香）近江源氏（鬼一紙治）など
時代世話一幕物の興行○同年十一月又々腰越狀阿波の鳴戸（辰
駕の淨瑠璃と出で此二替り役なり○嘉永三庚戌年正月（澤瀉
鎧長者（小万壽君賴家公）○同年三月（好色嶋田語）小足利の公達
鶴喜代丸○同年五月（忠臣藏五十三紀）小塩冶の嫡子為若丸○
同年六月忠臣藏後日狂言（増補四津谷怪談）前より同ト○同年七
月（菅原傳授手習鑑）小菅秀才○同年九月操り狂言取交（月雪花
蔭繪見臺（二代鑑）小秋津寫一子國松○同年十月（基太平記達升形）
に武隈治郎藏人子常若丸高野物狂ひの場評判より○嘉永四
辛亥年正月（蓬萊山世嗣曾我）當春羽左衛門改竹之丞九郎右工門
改羽左衛門八才ふて十三代目太夫元とある曾我小万壽君賴

家壽狂言に見物左衛門の所作事を勤む○同年二月（假名手本
忠臣藏（大切淨瑠璃）明烏花濡衣（小浦里の禿みどり）評判よく○
同年五月（戀相撲振袖妹背）小役なり○同年六月（一束笈花籠竹
之丞名殘狂言（一谷嫩軍記）大切所作事（松竹梅名殘島臺）小禿中
かき○同年八月上坂の望と達せず父竹之丞没す○同年九月
源氏（源氏模様の雛形）小朝霧の小性薫○同年十一月（花魁高良重賀紀）
娘景清八寫日記（に義經の公達今若丸）○嘉永五壬子年正月（里
見八犬傳（淨瑠璃）袖儿帳誓別朝妻（小曾我の箱王丸）○同年三月
隅田川對高賀紋（小主水娘）小徳大切（京鹿子娘道成寺）に立波五
郎○同年五月（新造艦奇談）に役なり○同年七月（名譽仁政録）小
役なり○同年九月（金毘羅利生稚雙）小源八一子坊太郎大出來

にて評よ。○同年十一月（鷗山姫捨松）に役なり。○嘉永六癸丑
年正月（里見八犬傳）に役あり。○同年三月（花吉田岩尾松若）太切
所作事（四季寫手向花籠）ふらん。○の仲居。○同年五月（意東
繪懸額）義經千本櫻（道行に鮎賣の若衆）○同年九月（假名祝嫁娘
復雙）ふ吉岡の一子三之丞後日狂言（御所櫻堀川夜討）ふ龜井六
郎。○嘉永七 甲寅年三月（梅柳魁雙紙）浄瑠理（梅艶解仇夢）ふ櫻草
賣嶋吉。○同年五月（假名手本忠臣藏）戀女房染分手綱（に若杉ん
およの三吉大切浄瑠理）六歌仙容彩（にかくまん坊）○同年閏七
月（繪本更科譚）ふ更科一子鹿之助。○同年九月（八陣守護城）安達
原（妹背山）道行に事觸橋内大切所作事（拙詫松種時）に太神樂鶴
松。○同年十月（青砥稿）浄瑠理（邯鄲）に賤の女おむら。○安政二乙

卯年三月（鏡山再盛花碑龜）浄瑠理（祝言鞆猿曳）ふ猿。○同年五月
（五人男諫膽渾俠）ふ山川屋のべつち千吉。○同年六月（機眼目視
敬案）ふ奴橘平。○同年九月（木下蔭硯伊達染）に清水の児龜若。○
今十月二日大地震ありて遂に芝居も類焼あり。暮より普請お取
掛り。が木材拂底の砌故長谷川勘兵衛工夫とり。る龜甲梁
とひふを用ひたり。○安政三 丙辰年三月（鶴松扇曾我）夢結蝶鳥
追（浄瑠理）姿替霞假宅（ふいや）や忤金子。甚兵衛孫座頭波市。母
に盗人の胤と聞き歎く所評判あり。○同年四月後日狂言（苅萱
道心筑紫轢）ふ重氏一子石童丸。○同年七月（義經千本櫻）道行浄
瑠理（花市座初音の旅）ふ鮎汲娘おち。○同年九月（葛紅葉宇都
谷峠）に座頭文弥妹お市。○同年十一月（娼女誠長田忠孝）二番目（松

竹梅雪曙ちくばいせつしやうの吉祥院の小僧弁長○安政四丁巳年正月ねづこ鼠小紋東
君新形のちんがたに蜺賣なひうりつけぶう三吉。嵐小僧の隠も家へ計らば蜺を賣
ふ來て姉のねえが盗人うり金と貰つて入牢せし難義あるを
漸に内いけぶう詞は真情顯ひ見物一同袖を絞りは幼年
の出世役ちり當狂言評判よく正月より四月迄興行○同年五月
〔歆討噂古市〕は一学倅主税之助。當五月坂東龜藏烏帽子親とな
りて羽左エ門元服なり主税之助は剃立鬘めて勤む○同年七
月〔網模様燈籠菊桐〕は七五郎娘按廣のかみ是又評より○同
年九月〔菅原傳授手習鑑〕は菊屋姫○同年十月〔伊達競阿國戯場〕
二番目大工殺し〔糸時雨越路一諷〕は巾着切小雀の竹。若衆の巾
着切評判よし是が賊役の初めなり○同年十一月〔寒砵音古五行寄〕

〔本〕相中の役者みて直安の興行。忠臣講釈大功記。藤栗毛歌祭文。
廓文章。は光秀倅重次郎。油屋丁稚久松。藤屋伊左工門。何れも評
より○安政五戊午年三月〔江戸櫻清水清玄〕は庵崎末女。淨瑠理
〔忍岡戀曲者〕は佐五兵衛倅佐吉○同年五月〔假名手本硯高島〕は
大星力弥○同年七月〔繪本大功記〕二番目〔千両幟〕中幕〔返魂香〕に
土佐修理之助○同年十月〔小春宴三組杯觴〕白石鉢の木。幡隨長
兵衛。は極樂十三○十一月は至り後日狂言〔柳寫噂錦画〕は奴橋平
○安政六己未年二月〔小袖曾我薊色縫〕は寺小性恋塚求女。百本
杭の殺し評判より工藤犬坊丸祐友箱根山對面祐經代り大出
來淨瑠理〔蝶々翼輕業〕は青柳要之助。輕業の上乗り橘龜吉當狂
言故有りて鬼薊丈ヶ預り一夜附は狂言を取替いせせ妹背山婦女庭訓

役なり。○同年四月〔世界拾蝶全小紋〕小下駄の市中幕〔牡丹記念
海老洞〕浄瑠璃〔種全薩埵誓掛額〕に御曹子牛若丸。○同年六月直
安の隻真行〔綴合戯場画草紙〕天徳。馬切。十人切。浄瑠璃〔影祭俄
俳優〕に天竺徳兵衛。座頭徳市。不破伴左門。奴林平。料理人喜助。
仕丁橘又。賤の男竹作。天竺徳兵衛。祖父梅壽老の侍有りて木
琴の唄なり。い実小器用なる妻あり見物も感心致したり。○同
年七月〔小幡怪異雨古沼〕に太郎助後家娘おむら。穂積丹三郎。○
同年九月〔假名手本忠臣蔵〕小本藏娘小浪浄瑠璃〔日月星昼夜織
分〕小祭りの多子舞新吉。清盛の小性天女丸。○十一月小至り赤垣
の別宅。討入。高輪引上ヶ迄三幕継足シ小潮田又之丞。一色左京之進
○安政七 庚申年正月〔三人吉三廓初買〕小木屋の多代十三郎犬

の崇りにて妹と縁を結び後チ和尚吉三小殺されるまぐ師匠
番が米升故申分なり。○同年三月〔加賀見山再岩藤〕に左枝犬清。
花房求女。所作事〔拙腕左彫物〕に彫物の獅子の精三人石橋小
團治權十郎小おわぬぬへ感心あり。○同年四月〔名高殿下茶屋
聚〕小早瀬源次郎。年号改元ふなり。○万延元 庚申年七月〔八幡祭
小望月賑〕浄瑠璃〔三五月須磨寫繪〕小伊豆屋与五郎祭りの練子
吾妻橘治。鳶の者白滝の佐吉。永代橋喧嘩の場あり赤間源左
衛門との達人せりふハ故人梅壽の声色ゆゑ見物一同大受く
此佐吉のめりまりと世評よく賣出たり今年ハ如何一
てり春より引續た不入めて流石の小團治も困り果此七月が
不入なり。大坂へ登るべしと密かに河竹と約せしと思ひの

外も大入ゆゑ旱魃小雨と得ゝ如く一座挙つて悦びゝ悦
ひあきば災ひありと八月末小類焼をくが早速普請取掛り
年内荒方出来ゝ〇万延二辛酉年二月鶴春土佐重頼當に佐々
木桂之助。名古屋下部鹿藏。狩野雅樂之助。浄瑠理魁若木對面。
契戀春栗餅に曾我の十郎祐成栗餅の曲肴杵藏。年号改えあり
て〇文久元年辛酉年五月害音纏漆分浄瑠理時鳥笈臈夜み井
筒屋新助。伊達の若徒逸平。〇同年七月東驛いろは日記浄瑠理
夢結露轉寢小佐藤与茂七。飴賣渦松。水木辰世実へ猫石の怪鳶
の者橘の鶴吉。天川屋の伊吾。浄瑠理の飴賣ハ例の本町二丁目
乃唄と三弦と彈て諷ふのく一寸見物の氣を取り當り狂言中
での當り又猫寺の老女と若き女で勤めゝが是も梅壽の趣き

有りて評よゝ〇同年九月本朝廿四孝中幕鬼一法眼三略卷二
番目名相續信田嫁入み長尾三郎景勝。草履取虎藏実へ源の牛
若丸。奴狐勘平。〇同年十一月菅原傳授手習鑑み舍人桜丸。判官代
照國。桜丸大出来腹切まで申分なり。〇文久二壬戌年正月戀結
團扇伊達組に足利左金吾頼兼。大工かゝくの六三実へ嶋田十
三郎。浄瑠理六歌仙容彩み在原の業平。祇園乃お梶。〇同年三月
青砥稿花紅彩画中幕魁源平躑躅二番目助六由縁江戸櫻青
砥稿み信田小太郎実へ弁天小僧菊之助。早瀬の娘お浪実へ弁
天小僧。此狂言ハ豊國翁が筆と揮ひゝ錦画の容と種み脚色ゝ
と致弁天小僧ハ羽左エ門みおて附の役柄故ゆゑり場み山
門の權ハもどきの立腹まで申分なき大出来みて取分け白浪

五人男の目さきが替って評判よく是も一ツの當り狂言なり○
同年五月（菅蒲合仇討講談）大切（猿廻門途の一諷）石井兵助。道具
屋与兵衛。井筒屋傳兵衛○同年八月（月見曠名画一軸）に梅咲屋
小七。二番目大切亡父竹之丞十三回忌追善所作事（法四季紙家）
搦拙（小鞍馬山の小天狗）曾我の十郎祐成。玉菊の亡霊。願人家
搦坊。鴛鴦の精。相多（一名にあふ芝翫）何れも出来よく面白き
事めて小天狗の宙乗玉菊の亡霊の祖父菊五郎傳未曾我の祐
成鴛鴦の精の亡父竹之丞の餘風あり分けて當世とらふつ
願人の道樂寺の木魚の音に響き氣を取るもの若多の一人也
○同年九月（むかひ盛衰記）二番目（花川戸未熟者中）に船頭又六。
白井權八○同年十一月（碁太平記白石噺）中幕（熊野靈驗車街道）

二番目（銘今傳讀切講釋）白石噺小宮城野妹志のぶ跡役なり○
文久三（癸亥年二月）蝶千鳥須磨組討二番目（三題咄高座新作）に
無官の太夫敦盛。熊谷の小次郎直家。祐康の一子箱王丸。大國屋
の抱千山。巾着切竹門の虎。當春より辻番附紋番附共市村家橘
にて書出しの次へ出し奥座元の居所へハ只一役羽左エ門名
前めて出せ○同年四月（花卯木伊賀両刃）小譽田大内記。拓榴武
助。腹切の大役と能ふさきほと大切淨瑠璃（總計文珠智恵輪）
に江口乃君。放下師市八。○同年六月（血屋鋪化粧姿見）二番目（傘）
轆轤（浮名濡衣）血屋鋪小高岡藏人。こゝ元お菊。同亡霊。三上の
胴六。お菊の役ハ小團治がもと取て教へるゝの責らるゝ内の仕
打万端米升其修めく申分なく又胴六の銜り水車の立廻り小

多利也急評よ。○同年八月〔竹春虎溪三笑〕二番目〔茲江戸小腕
達引〕浄瑠理〔女丈團子月能中〕薄雪に園部の左工門。膝栗毛
旅簷屋の娘小町のねつん。二番目小男達曙源太。此源太に當り
役にて義理ある兄の小團治へ愛想はの。と云ひ真身の姉の
菊次郎に位牌で異見を言れる所へ一日の見所めて真情に迫
るて泣ぬ者あり。○同年十一月〔假名手本忠臣藏〕に桃井若狹之助。
あゝえかかる。矢藤与茂七。芥定九郎。九段目の力弥。大切浄瑠
理〔歳市廓討入〕は大工由右二門子分与吉。義士の討入の有さま
を浅草市に准へ一笑。と云浄瑠理あり。○文久四 甲子年二月
〔曾我綉俠御所達〕に巴之丞妾時鳥一齋下部切平。雪枝小織之助。
大切浄瑠理〔柳系吹矢系條〕に曾我の五郎時致雷。右役の内大出

來へ巴之丞の妾時鳥めて小團治の百合の方の責殺さる。処評判
よく時鳥掛といふ根掛流行なり。當春より書出しの座に居る
○年号改元にあらず。○元治元 甲子年八月〔一谷凱歌小謡曲〕二番
目〔月出村廿六夜諷〕に傾城連実。薩摩守忠度。玉屋新兵衛。○
同十一月〔小春穂沖津白浪〕に田舎娘おむら。実。盜賊小狐礼三。八
重垣礼三郎。実。小狐礼三。雪月花三段返しのたんまり。田舎娘
を引抜き美々。と云縫の四天あり。六法めて引込。と云花やの
ある変あり。○元治二 乙丑年正月〔鶴千歳曾我門松〕浄瑠理〔一休
地獄噺〕に不破伴作。修驗者金剛院。男達野晒悟助。彦三郎故あり。て
久しく市村座へ出勤せざる。と云浮世戸平と野晒悟助と男達の出
入の場へ團藏の六字南無右工門が留めたり。吸筒の酒で仲直りと

させる所具員連の気め叶ひて評判より。又、年号改元あり。○
慶應元乙丑年五月あまのふだち つひのけふ〔菅蒲太刀對俠客〕小楠姑摩姫。妻笠小夜次郎。浄瑠
理ちゅうりん〔忠臣藏形容画合〕小桃井若狭之助。奴橘平。早野勘平。人形遣ひ西川
伊三郎。種ヶ島しげの六。豊竹渦尾太夫。近年ありき大浄瑠理はく何れも
評判能き中にも仕馴きぬ業の人形遣ひと七段目の出語りへ常乃
器用と言ひあふ急いそ稽古きこて感心く。○同年八月むすめひやうをさるあぐさ〔娘評判善惡鏡〕中
幕あき〔繪本太功記〕小明智十次郎。五人女。さむしさむしのね熊。浄瑠理か貸
浴衣汗雷ゆふこひせみ延壽太夫獨吟ひとりごと小奥女中竹川実まことへすむしすむしのねかへま
かうかうの役やくのね家の物ものめ五人の内で一番評よく此時共二評の
ふきへ夕立の獨吟ひとりごとにて延壽太夫が大坂で土産みやげの語りかた節が残り今
も彼地で語るより。○同年十月ゆきやだうまんあつちがき〔芦屋道満大内鑑〕奴与勘平。柏木民

部之助照光。淀川の船頭浪六。大切浄瑠理おとし〔滑稽俄安宅新瀧〕小烟
草屋源七。飛脚助平。○慶應二丙寅年二月やぐさ〔櫓太鼓鳴音吉原〕浄瑠
理あけ〔有安夢湖水〕同二番目おとこ〔鼠啼色逢夜〕盗賊東國太郎。飛脚渦平。
おろつおろつき鷺の長吉。三浦屋の新造胡蝶実まことへ薄雲の猫の怪此新
造大出来おほいにて氣と猫のころころで家根の上乃立廻りたちまわり有との事
ゆゑ樂がくししが相あひ手にあるあるべき彦三郎が氣の吹替ふきかをお出せしるるバ
折角の趣向しゆかうを失ひ残念ざんねんなるなる事であり。○同年四月はて〔伊達競阿國戯場〕
二番目ふたばんめ〔蝶々てふてふ子こ梅菊〕小荒獅子男之助。嘉嘉藤治。髪結濡髪長五郎。
野子の三実さんじつ。引窓小僧長吉。○同年七月かみで〔假名手本忠臣藏〕小桃井若
狭之助。早野勘平。石堂右馬之丞。たゐと持橘八。天川屋のぞろち伊吾。尾林
平八。佐藤与茂七。○同年十一月やねの〔雪武智一座初役〕ゆきぶち盛衰記せいすい小森

の蘭丸。けいぎ梅ヶ枝。無間の鐘の人形振り評より。○慶應三丁卯年
二月〔契情曾我廓龜鑑〕の箱根山女丈夫杉の精。賤の男湖水の渦松。船頭
大蛇丸の辰。三浦屋の契情岩藤。同新造初菊。多跡指南伊太八実の菴
崎求女。奥州屋の多代礼三郎。大切浄瑠璃〔質庫塊入替〕より奇妙院
塊入替傳書の精。今年ハ無人ぬく若手ハ家橘田之助の故柳島より引
籠り。左團治を再勤させ龜藏三十郎を後ろまよ名にぬく芝翫彦
三郎。拵持の両座と敵ハ家橘田之助奮發なり。岩藤。初菊。伊太八の
三役と一日代り小勤め出情ちせ。功頭も両座と同様大入る世ハ兩人の
手柄あり。○同年五月〔善惡両面兎手拍〕より妙心寺の僧日章後。ころつき
和尚次郎。葛飾治郎三郎。魚賣新助妹ハ百後。徳兵衛の妻ハ百。藝
者小三後。千葉家の妻ハ秀の方実ハ姐妃のハ百。當狂言ハ兼てより

田之助ハ姐妃のハ百家橘ハ和尚次郎を勤むる積りで脚色。一と
田之助ハ足病發。遂に出勤成り兼。うハ無據二役ハ家橘ハ獨り
で勤め。このと其甲斐もなく無人ハ中入ある。ハ残念なり。○
同年七月〔新累女千種花嫁〕中幕〔音響音藤戸濤〕ハ与右工門娘累。女按
摩ハる。実ハ累の亡靈。浮洲の太郎。大切四代目市村竹之丞百五十
回忌追善所作事上之卷〔調全法燈籠〕下之卷〔登全色大山〕ハ見物
左工門。唐人館ハホ。人形遣ひ。兔。大山参り斧琴の菊松。唐人館天ハ
登ろの宙衆り燈籠技の早替り兔の所作道具替つて惣出の大山
参り勇々の拵ハいつて。評より。○同年八月〔稽古筆七いろは〕に
高の師直。石屋五郎太。実ハ早野勘平。千寄弥五郎。中垣源藏。五郎
太ハ梅壽の傍ハる。源藏ハ又米升の趣きありて何でも出来る

昔用役者實に後世恐るべく大切の追善の所作に當真行に残り
たり。○同年十月〔大江政談雪墨附〕中幕〔源平布引〕〔大切〕〔焔山
姥〕〔觀音院の弟子法策〕後、天一坊、鈴鹿山の魔王坊、實に伊勢三郎。
萩の屋八重桐。天一坊の年齢といひ仕打万端大出來なり。○慶
應四戊辰年三月〔隅田川鶯音曾我〕の天狗小僧霧太郎、後けいせふ
花子、實に吉田の松若丸。奥州屋の代業平礼三。鶯の者水髮伊
之助。松若のちまり役の者申分なり。お賤礼三の後日狂言子役
とかせに愁歎の情に迫りて見物一同袖を濡さぬ者のなり。○
同年五月〔里見八犬傳〕中幕〔偽織襪襦錦〕二番目〔伊勢音頭戀寢又
犬塚信乃成孝。犬田小文吾悽順。神原佐五郎。福岡貢。十人切ハ血
筋の者自然と梅壽の傍有りて信乃小文吾も増りて評より。○同

年八月伯父龜藏の進めにより、茅竹松へ太夫元と譲り則十四
代目市村羽左エ門と改名あり。家橘の祖父の名を嗣ぎ五代目
尾上菊五郎と改名あり。〔梅紅葉錦伊達織〕二番目〔芦屋道満大内
鑑〕〔大切浄瑠璃〕〔執集月雪花詠草〕の仁木彈正左衛門直則。道益下
男小助。彈正妹八汐。奴与勘平。寂明寺時頼。名古屋山三。何れも評
の能き内にも小助の祖父の當り狂言改名の光り顯つれて小助の
一段大出來なり。○年号改元有て。○明治元戊辰年十月〔假名手本
忠臣藏〕中幕〔檀浦兜軍記〕二番目〔猿友門途の一颯〕〔大切〕〔其傍花鞘
當り〕高の師直。四段目の判官高貞。早野勘平。斧定九郎。岩永左エ門
宗連。井筒屋傳兵衛。名古屋山三。○明治二己巳年今年ハ三座割振
りに依て中村座へ出勤なり。座頭を勤め當正月狂言〔鼠小紋菊重扇

染中幕（つきのうめぬぎのうきま）月梅惠景清（つきばいけいせい）浄瑠璃（じやうるり）魁梅幸色秀姿繪（くゐばいしやくしうさえ）小修驗者頼豪。菊
地兵庫之助（きくちひらたけのすけ）實ハ怪嵐の具。稻葉幸藏（いなばしやうざう）實ハ治郎太夫。賣ト者寺島梅山
實ハ治郎太夫。景清娘人丸。工藤左工門祐經。風玉賣ふ（ふうたまうり）の玉六〇
同年四月（ねんねしがつ）百音鳥雨夜簑笠（ひやくおんとりうやふさかさ）二番目（にばんめ）忠孝武藏（ちゆうかうぶざう）鑑（かん）小加古川清十郎。
大松屋清七。柴田修理之助勝家。〇同年七月（しちがつ）吉金余由縁音信（きちきんよのゑんおんしん）二
番目（にばんめ）浄瑠璃（じやうるり）大都會（たふかい）成扇繪合（せいせんえがひ）小湯灌場小僧吉三。小堀の召仕か杉。
非人土左工門傳吉。金貸座頭徳市。白酒賣新兵衛。髭の意久（ひげのいさ）實ハた
以持菊八。此八百屋於七湯灌場吉三ハ乾坤房良齋ハ世話講談
の一種ハ能人の知る所（しるしよ）なり。當時かやうな世話物ハ梅幸が得手故
に大出來（おほい）めて評（ひやう）よ。〇同年十月（じゅうがつ）相馬禮音（さうまらいおん）幾久月（いくきげつ）二番目（にばんめ）契情
返魂香（へんこんかう）浄瑠璃（じやうるり）名画揃（めがずら）俄の番附（ゑのばんづき）小相馬太郎良門。善知鳥安方。安

方の亡具。猪口の猪口平（いのししのへい）實ハ相馬太郎良門。狩野雅樂之助。祭の
練子八重梅の幸吉。善知鳥の世話場道具替り（しやうぎやう）めて地獄に成り鳥
類に責（せ）らるゝ所評（ひやう）よ。又猪口平の一寸法師ハ米升其俵（いねのぼり）めて大出
來（きこ）なり。〇明治三（めいし）庚午年（かうんねん）正月中村座（なかつむらざ）秀水仙梅幸曾我（しゅうせんばいそうが）に大藤内
成景（なりけい）實ハ近江の小藤太成家。曾我の十郎祐成。工藤左工門祐經。髪
結和國橋の藤治。當春より守田座二番目ハ出勤同月守田座（しゅでんざ）館扇
曾我訥芝玉（そうがのねしぎたま）に弁天小僧菊之助。初めての時より念（ねん）入（り）て見栄（みえ）へ
あり。〇同年三月中村座（なかつむらざ）往古摸樣扇重逢（むかしもようせんしゆうほう）二番目（にばんめ）梅曆辰巳園（うめりきんしゐのぞの）浄瑠
理（じやうるり）大和谷滝音羽湯（おほとやふたきのうた）小男達御所の五郎藏。巴之丞愛妾時鳥。唐木
谷五郎無三四。条の仙人。凡琴屋丹次郎。〇同月守田座（しゅでんざ）樟紀流花
見幕張（みまくちやう）二番目（にばんめ）家櫻廊掛額（けいさくらろうかけがく）小花川戸の助六。同年五月中村座（なかつむらざ）鬼

薊伊達染締あきまてぞめかぶるに極樂寺の所化清心後、鬼薊清吉、仁木彈正直則。
同姉八汐。○同月守田座しゅでんざ〔花菖はなしょう紀念画雙紙きねんがふたはらひ〕二番目にばんめ〔時鳥水響音ときとりみづひびくね〕に
道具屋与兵衛みちぐしやへいゑ実へまむゝの次郎吉。此二番目へ文久年間世小流
行せし三題吐さんだいどのト、ヤの茶碗の筋を其終世話狂言み脚色きゃくしき一が
惜しひの序幕きりきりて跡を見せば仕舞ふなり。○同年六月
同座复狂言ふたまたまきやうげん〔婷音魁系紀花轡ていおんけいぎはなわたり〕小船頭天竺德兵衛こふねづてんしやくとくへいゑ実へ宗觀一子大
日丸。座頭德市ざとうとくいち実へ天竺德兵衛。不破伴左工門重勝ふわばんざくもんしやうしやう実へ天竺德兵衛
○同年八月中村座なかつむらざ〔假名手本忠臣藏かまてほんしゆしんざう〕に高の師直。早野勘平。寺岡
平右工門。佐藤与茂七。○同月守田座しゅでんざ〔狭間軍紀成海録さまけんきなりなみりく〕小郡幸内。水
間左京之助。幸内の拷問左京之助の討死二役共評よし。○同年
十月中村座なかつむらざ〔義經千本櫻よねのせんぽんざくら〕手向山絶幣てむけやまのくはし〔檀浦兜軍記だんぷかぶけんき〕浄瑠理じやうるり〔男達六

初雪はつゆき小佐藤四郎兵工忠信。源九郎狐。相摸五郎。舍人櫻丸。男達天人吉
三。○同月守田座しゅでんざ〔群見成戀情紀譚ぐんみなりこひじきだん〕に行岡幸左工門。信濃屋おせん
二役共故人の傍りて評よし。○同年十月中村座なかつむらざ〔双蝶合曲輪日記ふたてつあひくわしにちぎ〕
中幕なかつまく〔神免流自在鍋蓋かみめんりゆうざいなるべがさ〕小放也駒の長吉。○同月守田座しゅでんざ〔高麗陣帰かうらいじんき〕
朝入あさいり〔二番目浄瑠理にばんめじやうるり〕〔鐘音雨古墳かねおとあめふる〕小菴崎求女の灵。寺男寺寫長
吉。神主雨成。○明治四年しんしゆしやうねん今年へ書出かきだしめぐ中村座なかつむらざのり出
勤正月きんしやうげつ〔薪曲輪七種紋日しんまがらひしちしゆもんにち〕二番目にばんめ〔本調子糸音色ほんてうしいとのね〕大切浄瑠理たいせつじやうるり〔画音えおん〕
音春錦おんはるのやきき小渡邊小左工門一子四郎三郎。七草四郎利貞。稻倉苗膳之
助。鳶とびの者お祭り佐七。曾我の五郎時致。奴風やつかぜお祭り佐七へ申分
ちし浄瑠理じやうるりの奴風やつかぜへ是迄と違ひ新工まゝて宙衆ちゆうしゆのまゝくんと横
に廻りし放也業具負連小膳と冷させたり。○同年三月しやうごつ〔鶴亀曙模様つるかめしやうもよう〕

初筈^{はつがは}は三浦荒次郎義澄。召仕は初。大切坂東龜藏一世一代の所作
事^{こと}〔壽名殘嶋臺^{じゆなごころ}〕は梅津掃部之助。茂林寺の住僧林鶴。田舎娘わふく
実^{まこと}は茂林寺の古狸。此一世一代の所作事へ悴菊之助足利の小性菊
若^わふく初舞臺今年五才なり。○同年七月〔義士外傳復讐鑑^{ぎしがいへんふしうかん}〕は赤
垣源藏。斧定九郎。小の寺十内。大切浄瑠理〔生木偶花洛名所^{いきうくわらくなところ}〕に白
拍子熊野。氷商人梅吉。○同年九月〔東海奇談音児館^{とうかいきだんおんこく}〕浄瑠理〔競天^{けいてん}〕
三保松羽衣^{さんほまつうへ}は盗賊の張本二本駄右門。天竺阿羅漢那迦犀那尊
者。嶋原の傾城薄雲。玉島幸兵衛。山猫の怪。白拍子浮嶋。穀物屋の
名代善九郎。月本の家老磯貝民部。當狂言は梅壽が名代の東海道
五十三次へ新案を加へ一通狂言其中めも目新らに頭巾袴形
その座頭が捕手掛りて頭巾を取ると五十日^{いそひ}袴下駄と其終は大

小と差く浪士の持へ成り月落烏鳴の唐詩選を幕内で吟声させ
花道へ引込^{ひきこ}へ新趣向と大受なり。○同年十一月〔義經千本櫻^{ぎへいせんぽんざくら}〕はんまり
の場小金毘羅参り長吉。いがりの權太。九郎判官義経。浄瑠理〔神有月^{かみありつき}〕
色世話事^{いろのせじ}は銘賣かん子。○明治五^ご申^{しん}年正月〔梅姫好浪花扇記^{うめきこうなわあふせんき}〕二番目
戀慕相撲春顔觸^{こい慕さうぶくはるがほ}は三浦長門守重成。浪士鵜太郎。松頭鶏の長吉。葛
飾十右エ門。実^{まこと}は坊主幸治。洋学の書生寺嶋松雄。大切所作事〔六歌^{ろっか}〕
仙姿拙^{せんさく}は茶汲と女祇園のわ梶。一番目長門守重判元見届ける如何うと
思の外近年での大出来二番目の長吉へなまり役ゆゑ申分あり。○
同年三月〔病櫻^{やまざくら}〕はぬい譚^{わたり}二番目〔白柄黒手廓達引^{はくへくろてくわくたひき}〕は鳥山犬千代^{わかしとすけ}後、
秋作照忠。花野村の千種^{ちしゆ}。実^{まこと}は鳥山秋作。捻華寺の鐘樓守頭念。黒手
組花川戸の助六。○同年五月〔濃染菖蒲帷^{のうせんあやむすひ}〕中幕〔實説菊夜話^{じつせつぎくやわたり}〕二番

目〔増補浪花鑑〕小横山大八。浅山の召仕お菊。同お菊の亡。一寸徳兵衛。三河屋義平次。大切浄瑠瑠〔浮廓意善悪〕お西洋の曲馬師スリエ。目新く評判より。○同年七月〔源平魁莊士〕二番目〔於岩稻荷驗玉櫛〕お源九郎義經。小間物屋与七。佐藤与茂七。伊右エ門女房お岩。小佛小平。お岩の亡。大切浄瑠瑠〔夕納涼見立錦繪〕お草薙小文太。四谷怪談の祖父菊五郎が初めて勤めより五十年お當り。まふ四代目菊五郎のてうと十三回忌ゆゑ合せて追善狂言に。右の三役を勤めが仕掛物迄念が入りお家の物とく申分なり。○同年九月〔鷲淵山鬼若物語〕二番目〔幸后月松影〕お奴智恵内。実の吉岡喜三太。鑄掛屋松五郎。後盗人いけ松。大切浄瑠瑠〔積戀雪關扉〕お墨染櫻の精。いけ松の腹切の前より米升が只二日勤めより故

目新く殊小道具の好みの能いので一々見物が感心なり。たゞ○明治六癸酉年再び座頭を勤め二月中村座〔御代春陽曆曾我〕中幕〔岸姫松書鑑〕二番目〔俠客姿錦繪〕お安倍の仲麿。朝比奈の三郎義秀。閉坊傳吉。大切浄瑠瑠〔花對俄曲搗〕お道成寺のワキ師梅之進。黄金餅屋杵藏。今年午前十時迄村山座へ出勤なす事。小極り同年三月村山座〔太鞍音智勇三略〕お鳴瀬東藏正負。權之助の鳥井と果し合め出合へ見物行唾を呑んで悦び朝三立目の初まり頃より土間棧舗共のいなり成り世評酒井の太鞍と共に鳴響いて大入りなり。○同年四月中村座〔梅柳櫻幸染〕お鳥井又助。局岩藤の亡。家老長谷部帶刀。大切浄瑠瑠〔月雪花色の姿繪〕お獵人玉藏。岩藤の蘓生又助の腹切先人おとねの手柄なり。○同年五月

村山座（梅浪花真田軍配）小本村長門守重成。權之助の片桐との
留別ハ殊の外評判よ。○同年六月中村座（花軍扇繪合）二番目（梅
雨小袖昔八丈）小上嶋主水（大澤傳八郎）髪結新三。大切（左手
美翫（譽彫物）に郵便の配達音吉。上島の鎗の試合と流行の撃劔
會に准へハ見物の氣をとりたり又二番目乃白子屋ハ前ハも云
ひハ良齋の講談ふく仲藏の家主との出合ハ実ハ狂言トハ思ハ
とハ幾度見ても倦ざる程の出来たり。○同年九月村山座（増補桃
山譚（奥州安達原）二番目（尾花比翼碑）小寺西閑心（本庄助市）大
切小十一代目市村羽左衛門五十回忌十二代目市村竹之丞廿三回忌
正當ハ付家橋と兩人めく追善と勤む浄瑠理（花艳法音樂）小修驗
者大藤内。大山の雷。人形多し。菊川五郎三郎。仕丁五郎又。此浄瑠

理中めて見物の目を驚かせ。ハ今年六才なる悴菊之助が子雷りと
勤め菊五郎と共に宙乗りをせたり。○同年十月中村座（雙言龜山
新聞（中幕）梔山錦木下（大切浄瑠理）來宵蜘蛛線（龜山）小天狗
傳快（盗賊土生）の小猿。赤堀水右門。湯灌場買かんがハ八郎
兵衛。武井文藏。中幕大切ハ役なり。○同年十一月村山座（忠臣のろは
實記（清水一学）大切浄瑠理（廓文章）に扇屋夕霧。義士銘々傳の
中ハ高方方の狂言ゆゑ目前きが替つて評判よ。○明治七（甲戌）年今
年より守田座ハ出勤三月（連歌花二見文臺）群入田鶴竊魁菊（秩父
の庄司重忠。男達野晒悟助大切浄瑠理（廿三回笹画双紙）小燕人張
飛。厩別當書（音助）。○同年五月（入間館劇場繪本）二番目（新板色
讀販（小召仕）初。油屋娘ハ染。番頭善六。奇麗ハ染ハ引替て番

頭の笑ゝゝゝ案外の大出来み見物一同小悦ひまゝ〇同年七月
〔里見八犬傳〕中幕〔義經腰越狀〕に犬塚信乃。房八女房お縫。犬川
莊助。源の義經。二番目〔繰返開化婦見月〕み春米屋赤米仙右工門。
辻道具屋天ふり銀次。此二番目の三人片輪の當春狂言は仕組にし
所都合よりて明智と替り再び七月狂言に菊五郎が勤めゝ
ちり天ふり銀次いひ迄もあく仙右工門が目くらとなり先非を悔
し按摩の世話場貧苦に迫り艱難のり別れし悴の跡を追ひ尋
ねて行しステーション發車の跡で逢ふるなりぬせりなり仕り
米升此方かりいふ役の限り升〇同年十月〔宇都宮紅葉鉤袈〕中
幕〔二谷凱歌小謡曲〕〔檀浦兜軍記〕み松平越中守。大工与四郎。江口
の傾城漣太夫。実の薩摩守忠度。岩永左工門宗連。大切浄瑠理〔壽

ろつ猿〔に女大名園菊。宇都宮の与四郎の大出来めて評よゝ
〇十一月に至り凱歌小謡と兜軍記を預り〔福在原系圖〕〔白浪五人男
と出〕一番目と大切を残り十一月狂言に換なり五人男み弁天小僧
菊之助いづもなり〇明治八乙亥年今年守田座會社
と組み座名を新富座と更一月狂言〔扇音音大岡政談〕二番目〔梅鑑
田大力巷説〕み感應院の弟子法沢後。億川天一坊。平石治右衛門。
魚屋伊之吉。大切浄瑠理〔四民姿錦繪〕み額面画抜々の植木賣。〇
大岡政談の名高き神田伯山生が年頃讀し講談を狂言み脚色
し故殊の外評判よく近年稀ある大入場し〇同年三月〔天満宮
國字撰額〕に早野勘平。判官代照國。舎人桜丸。春藤玄蕃。松王女房
千代。あゝもとかかる。大切浄瑠理〔日待遊月夜芝居〕み夜這星。百姓

草分五九工門。玉藻の前乃飛去りよる本家と稱へる音羽屋の音に響き―宙乗りも其名も耻む梅幸へ祖父より遙か勝りたる○同年六月〔明治年間東日記〕二番目〔けいぞ阿波鳴戸〕東日記に脱走の士夷伴五郎。松屋のち代幸七実へ掛川の非人幸十郎伴五郎召捕おたる所へ當世を穿ち評よ―○同年七月〔復讐殿下茶屋聚〕中幕〔太平記曦鎧〕大切浄瑠理〔道成寺真似三面〕殿下茶屋お安達元右工門。京屋ち代万助。同年十月〔筑紫巷談浪白縫〕に紅陽院安養。同亡霊。青柳主水。庄屋幸十郎。二番目〔双蝶全曲輪日記〕お役ち―一番目の四幕目紅葉の間めく彦三郎の豊後と菊五郎の主水が闇討おせんと切て掛り兩人闇がりの立廻りよる異見の件ハ一日の眼目に―て見る人譽ぬ者いなり○同年十月

〔初深雪佐野鉢木〕二番目〔夜講釋勢力譚話〕お袴無保捕。馬士小佛藤六。修驗者奇妙院 実ハ野狐勘次○明治九 丙子年一月〔善惡兩輪妙全車〕お度九郎女房荒妙。旅商人師屋幸七 実ハ船越主水。兎子魔度六 後海賊魔度六。新聞講談師梅龍。四役共大出来めく評判の能き其中めも梅龍の講談ハ彼南龍生がのんくの口調をよろろ真似らる―ハ急習古ハ思ひきハ實に感心の至りなり大切浄瑠理〔六歌仙名家次女画〕お役ち―○同年三月〔川中嶋東錦繪〕二番目〔昔風俗替新兵衛〕お山本勘助入道道鬼齋。古鉄買七兵衛 実ハ駒沢七郎忠友。鶏飼九十郎。一番目の勘助の討死の場ハ芳年生が武者繪と其終寫せ―掛へ見物乃目々悦ませ當時若手の人気取りなり○同年六月〔早苗鳥伊達聞書〕に片岡小十郎。神並三左工門

実へ角力取鳴神峯右エ門。茶道珍賀。大切浄瑠理〔三社祭禮已提灯
小百人藝音吉。一番目の三左エ門へ小兵をれども其以前角力
取で有るといふあるの仕打で見へへ感心當狂言へ一座の評能
引續て大入なり。○同年九月〔音響千成瓢〕二番目〔出世娘瓢箪〕當
狂言旅行あり、出勤あり。○同年十一月〔天草日誌劇新聞〕小渡邊四
郎後天草四郎時貞。播島甲斐守。山田右衛門。何れも評より。今月
末は惜むべし。祝融子の為小灰燼となり暫く芝居も休業も僕も
又所用ありて梅に因るの浪花へ趣き假し彼地へト居せし故筆
記の筆を止めしなり。

追加

河竹其水記

○明治十丁丑年本普請建築中更小同所四丁目にありて仮普

十八

請みて真行則四月開場の初狂言〔新舞臺恩惠景清〕中幕〔近江源
氏先陣館〕み注進の軍兵音平。二番目〔富士額男女繁山〕浄瑠理〔夕立
墳春電〕小書生妻木繁実へ左膳娘おちげ後神保妻おちげ大
切所作事〔鈴音獅子翫〕み操り三番叟。新聞賣風鈴の音。二番目の
妻木繁実書生姿も実へ女に何所やうやうしひ所が有て左團治
の人力車夫小女と知らしめて是非なくも其身をまうに宿屋の
場で達摩合羽の裏乃赤きと骸の色気みをもつて一見功者も感
腹なり。○同年六月〔一谷嫩軍記〕小無官の太夫敦盛。熊谷小
次郎直家白毫の弥陀六実へ弥平兵衛宗清中幕〔敵討縋縋錦〕二番
目〔勸善懲惡孝子荅〕小紙屑買福住善吉。寫真師北庭筑波。此福住
善吉の親甚兵衛の罪み代り遂小横濱の懲役人となり外役先

ふて我子み逢ひ種々艱難の喩を聞泪あむせぶ親子の真情棧舗
も土間も男女の別なく袖を濡さぬ者もある程近年あつた大
出来ある○同年八月二幅對文武戡物小野道風二番目二度曠着昔
八丈お髪結新三當狂言の大暑の砌ゆゑ直下ケにて興行○同
年十二月黄門記童幼講釋小稻葉石見守船頭河童の吉藏藤井
紋太夫中間小稻葉の音藏河童の吉藏が詮義おほひ我惡事を
白状せず舌を喰切つて死す所是迄ありき形ながらさう有るべ
と思われ又藤井紋太夫が能の囃子を鳴物ともい仕舞の振の
立廻りの相もの伯父が仲藏ゆゑ呼吸が合て面白く後先非を悔
悟なり陰腹を切て鏡の間へ出水府公に見頭いされ手討もある
件迄團十郎と二人りの出合一日の内の見所なり大切所作事

りまへてあつたこと「街明治世賑」小俄の連中菊松當狂言の何をも評よくされ月迫の
年の暮小常に変らぬ大入なり○明治十戌一月見模様曾我館
漆ぞうに鬼王新左工門鹿兒島なんまう小無名の士族黄門記童幼講
釈すけ小藤井紋太夫大切浄瑠理柳風吹矢の糸條み三途川の脱衣婆甲
子の大黒天鹿兒嶋のなんまりハ次狂言の下漆ゆゑ唯其姿を見
せしめたり○同年二月西南雲晴朝東風小簀原國元研師小川
宗治澤元の妻お才倉田新八郎四役の内簀原が戦争の場ハ分
て評よく兵隊の指麾小勇氣をえせ数發の彈丸小身と討ち落
馬なり西條や武ノ上に面會あり痛き屈せぬ幕切迄十指
の指さけ所あり是も一場の呼物と形まり大切浄瑠理是珍聞
猫根津美おとねづみ小九州の士族津々木段平実ハ新家三遊亭圓幸新家

の九州詞クヤクハ大受めく古めうき笑いも出顔の姿が新
らしく以てちがひ大當り。旧地へ本普請出來、付同年六月七日
開場式を行ふ何れも小禮服を着し舞臺中央めく團十郎は續
き座主守田勘弥が代り開場式の祝詞を讀み跡吉例式三番元
祿踊り三人石橋が三番叟に猿樂師あり。○同月〔松榮千代田神徳〕
が木下藤吉後羽柴筑前守秀吉鳥取半藏柏原小平太恭政野沢
弥十郎大切所作事〔牡丹蝶扇彩〕が猿樂師寺嶋主殿元祿踊りへ
菱川風の古風な姿が目新らしく三人石橋が金色輝く能衣襲
ゆき目ざすく立派なり。○同年八月〔舞臺明治世夜劇〕ハ大傳
に太田新六郎助友青山の召仕が菊同亡霊早川主水実へ寺嶋三
治血屋舗の三度目の延年功績にて以前めまききり。○同年十月

〔日月星享和政談〕中幕〔三張弓千種重藤〕大切淨瑠璃〔女主人同士意〕
裏表〔享和政談〕旅役者宮川牛之助後延妙院日當非人小栗
の馬吉日當も大出來れどふて馬吉の一日の内同様なり
乃場が二三度ありとくく模様を替て致せし世話あけ
て小栗は縁の鬼鹿毛の鬼といふ。○同年十一月夜芝居〔假名
手本忠臣藏〕毎日替りに足利直義公高の師直桃井若狭之助塩
治判官加古川本藏鷺坂伴内大星由良之助斧九太夫石堂右馬
之丞山名次郎九工門斧定九郎早野勘平千崎弥五郎不破数右
工門一文字屋才兵衛せぶん源六狸の角兵衛おかる母おかや
寺岡平右工門大鷲文吾大切淨瑠璃〔東花一座顔見世〕が平親王將
門と打連幸右工門毎日替りの初めて故世間一般の評判とな

手賃舗の切多と五日分續けて求める人などありて暮々似合む
大入なる殊に浄瑠理ハ三都の顔見勢めく京の八乙女大坂の
を打江戸といひ―昔―ハ毎年あり―暫くを久―ぶりに
勤め―る芝居好事の御連中ハ多て打て悦びたり○明治三
乙卯年一月〔毎日替の忠臣蔵〕大切三都の浄瑠理を預り〔積戀雪崩
扉〕ハ良峯の宗貞。關守関兵衛。実ハ大伴の黒主。墨染桜の精。やう
三役を毎日替りに勤む○同年二月〔赤松満祐梅白旗〕ハ赤松五
郎教康。中幕〔勸進帳〕二番目〔人間萬事金世中〕ハ惠府林之助。大
切浄瑠理〔魁花春色音黄鳥〕ハ日分貸馬のハハ。二番目の金の
世中ハ西洋の演劇を池の端乃先生より承り―と其終ハ彼地
の事と日本乃横濱の事ハなせ―ハ腹を抱へる笑―と有りて

狂言の評もよく海岸の場乃灯入の月へ時く雲の拭るは掛ハ
梅幸乃好むに月の評能きゆゑに此場ハ一層光りを増した
て○同年五月〔終合於傳假名畫〕ハ波之助女房玉橋ハ傳。人力車
素走の虎吉。中幕〔花洛中山城名所〕ハ水戸宰相。大切〔昔縹廓鞘當
驚の者彫物連治。玉橋於傳ハちやり役ハ名振ハ万端申分なく
中にも丸竹の二階の場ハ新内ハやうの明馬延壽太夫の獨吟を
殺―ハ件ハちめハの古イ趣向ハ新―く此場ハ一の佳評なり
○同年九月〔源平布引滝〕〔漂流奇談西洋劇〕奥州旅行中ハ
出勤ナ―○同年十月〔鏡山錦艳葉〕ハ大月源藏後大月藏ハ浦
井の若徒曾平次。大切浄瑠理〔中宵宮五人俠客〕ハ男達根岸の松
右工門。此大月源藏ハ色氣のある立敵みて當時梅幸に限る役故

幕毎に評判よく大詰篋牢の場乃立腹に祖父傳來に申分なく
居所替りに三上山より湯島乃祭りの道具となり五人男の花やの
みく打出し際評判よく○明治十三庚辰年一月〔御存白石新〕
に与浅作娘おのふ。昨年の奥州行に宮城野信夫の事跡を尋ね
たかやかまの实地を聞きせりふに余程用ひふもたゞ中幕〔桃山〕
譚二番目〔劇〕春霞網嶋〔滑稽〕膝栗毛に出勤なり○同年三月〔日〕
本晴伊賀復讐に沢井又五郎。町奴夢の市藏。大切所作事〔六歌仙〕
狂画墨塗に書撰法師。一番目の伊賀越の御家と世話の裏表に
て備前町に名も裏く上羽の蝶乃定紋に夢と異名の市藏が瘡
の病に半兵衛より貫ひし薬が毒薬にて無念に苦む幕切迄
かやうな役の得意を申分なく大出来なり○同年六月〔星月夜〕

見聞實記に由利八郎惟久。古郡新左エ門保忠。二番目〔霜夜鐘〕十
字辻〔笹〕に查官杉田薫。大切浄瑠璃〔首尾四谷色大山〕に大山参り
兼松。一番目の星月夜に由利八郎の郎内へ泉の小次郎親平が同
士とかわりひ切込に昔模様を今ふりし目前を替へ仕らばに
毎度ちう感心せり又霜夜鐘の杉田薫のさのみ乃更をけふ見る
如く巡査の職務を尽されし世評の能き狂言を仕活さる故
あるべし○同年十一月〔茶臼山凱歌陣立〕に木村長門守重成。今錯
人加藤弥平次。二番目〔木間星箱根鹿笛〕に海老屋の娼妓おさよ
実へ九郎兵衛女房おさよ。葉茶屋岩淵与七。二番目の娼妓おさ
よに士族の娘の以前が見へ箱根山で夫を殺さる後九郎兵衛
が神経病で我のを見ゆる開化の幽霊他へ見へぬのが猶をかく

壁へほんやり消るのい人も遣つて奇く妙く又与七が兄の悪業に困る内ふも兄弟の实意のふゆるい感心なり。○明治十四辛巳年一月〔松梅雪花三吉野〕あいのしめのみぎやうとくしやうのに菅原の道実公。後室覺壽。判官代照國。宿根太郎。土師の兵衛。偽迎ひ弥藤次。舍人松王丸。同梅王丸。同櫻丸。氏原の時平。武部源藏。春藤玄蕃。よづれりり。与太郎。いづきの權太。主馬の小金吾。鮎屋弥左工門。同弥助。梶原平三景時。佐藤忠信。源九郎狐。源の義經。返り坂の藥因坊。横川の覺範。先年の忠臣藏にあらひ何事も毎日替りふ勤む同年三月〔天衣紛上野初花〕あまのきぬふりやうの御家人片岡直次郎。桜井新吾。実ハ直次郎。札差伊勢屋清三郎。実直次郎。中幕〔千代誉松山美談〕ちよのちよめまつやまみだんみ役なり。通一狂言の直次郎の打附のちより役め名出る幕毎み仇矢なく中にも的大當

つゝ入谷田甫の立廻り道具の好む鳴物の詠へがよく佳評あるも降り積む雪よも年功を殷く積む故なり。

○當五月狂言より梅曆君の厚意を仰ぎ千代見草の跡を嗣ぎ壽き長れ菊の栄えを年を重ねて次編とせし再び愛顧の諸君子へ一小冊を配呈なさんと梅幸具負の魁ある素行竺阿彌老人が催主とせしめて已も又次編の筆者とせしめこせ

